

どんぐりって すご〜い!

2010年度「どんぐりまつり」報告

協会理事 杉本 博

<全体報告>

- (1)自然遊びを復活し子どもたちの感性を育てる。
- (2)自然遊びを通じて自然の楽しさ、素晴らしさを子どもたちに伝える。
- (3)どんぐりの木に代表される里山の自然を守り、再生することを訴える。

以上の3項目を開催趣旨として、2010年度も11団体が歩調を合わせ、総参加者数726名を集めて行われた。

各団体からの実施報告は下記のとおりだが、実施者側の感想として「こんな単純なもので参加者に喜んでもらえるだろうか」と思っていたところ、案外に好評を得たとの感想が特徴的であったと思われる。一方で、マンネリ化しているとの意見もあり、継続していく上での検討課題も残されている。ともあれ、第18回を数える本事業は地域に根付いた活動をして自然に触れる機会を提供している意味は大きい。インスト講座が生み出した成果の一つと言える。

<実施一覧>

主催団体	実施日	参加者数
服部緑地自然を楽しむ会	10月17日	13
大泉緑地自然観察会	〃	8
えぼしがた公園自然観察会	〃	48
太子町葉室里山クラブ	〃	38
池田自然観察会	〃	43
泉北自然を楽しむ会	10月23日	9
鉢ヶ峯の自然を守る会/堺自然観察会	10月24日	59
吹田自然観察会	10月31日	34
茨木・高槻自然に親しむ会	〃	27
城東どんぐりまつり実行委員会	11月3日	353
寝屋川自然を学ぶ会	11月7日	94
内容等 ・説明 ・観察 ・実験：ジョロウグモの巣網を使って ・ゲーム：コマ回し、コリンドゲーム、ドングリ運び、ドングリつかみ、ドングリ飛ばし、ドングリすくい、ドングリビンゴ、蔓の輪投げ、落ち葉の魚釣り、コイン落とし、ストラックアウト ・体験：木こり、ドングリの播種→苗木の里親、電動車でGO、オナモミダーツ ・クラフト：コマ、やじろべ、笛、ドングリペンダント、木の葉のパウチ、流木アート、シュロバッタ、ススキのミミズク、リース ・試食：ドングリ、アオギリ ・音楽会 ・展示		

＜各地域からの感想＞

- あまりに単純過ぎて、すぐに飽きるかなと思ったのが杞憂に終わるほど一生懸命で大人も子どもも楽しんでもらった。参加者は少なかったが、色んな発見があり大いに勉強になった。アオギリの実（炒ったもの）は好評【えぼしがた】
- 日曜日の方が参加者が多いようだ。【鉢ヶ峯】
- 工作などについて、スタッフそれぞれが出来るようにする。【鉢ヶ峯】
- どんぐりの播種は幼児も喜んでくれた。「どんぐりの里親」企画は、どんぐりまつりにふさわしいと思う。【鉢ヶ峯】
- 参加者が少ない。マンネリ化→その原因と集客の課題。行事そのものが過去のものになっていないかも要検討。新しい試みが出来ないだろうか。【服部】
- 小雨が降りだしたが、急遽庇のある場所で予定をこなせた。台風情報で順延した結果、参加者が少なかった。雨天順延の際、検討要。【吹田】
- 参加者は低年齢層。【茨木・高槻】
- 「どんぐりまつり」の場合、参加費の徴収は不要では？（保全協会の負担、補助金を得るなどを要検討）【吹田】
- 「どんぐりまつり」は秋空のもと、自然に親しみ、遊びから学ぶまつりとの原点に戻っての見直しが必要。【吹田】
- 地域行事の絡みで参加人数が少なかった。（学校行事実施日の変更で日程が重なった。）【池田】
- 参加者は少なかったが、かえてアットホームな雰囲気が出来た。【泉北】
- 市の広報に掲載されたことで昨年よりも多くの参加者があった。実施場所が市内中心部であることや午前中での終了が参加者にとって参加しやすかったように思われる。【茨木・高槻】
- 工作のバージョンアップが図られた。【葉室】
- 今年は里山では「どんぐり」など木の実が少なかった。【葉室】

「都市と自然」420号2011年3月号より転載